

生産性向上への取り組み（山梨交通(株)）

申請番号	系統名	実施主体	取組内容	取組目標	取組期間	期待される取組の効果	数値目標(目標期限、目標値)
1	甲府駅～野牛島～御勤使	山梨交通 ・県 ・関係市町村	オープンデータによる各コンテンツプロバイダとの連携	現在運用しているインターネットによる「バス総合案内システム」(路線・バス停位置・時刻表情報)の継続運用によるオープンデータの運用と、各コンテンツプロバイダとの連携による公開	R6.10 ～ R7.9	インターネットによる事前検索等、利便性の高い情報収集方法の提供により、利用促進を図り、収入増加が見込まれる。	※参考 令和5年度実績経常収支率 第1号:65.9% 第2号:59.9% 第3号:65.2% 第4号:87.5% 第5号:34.6% 第6号:49.4% 第7号:53.4% 第8号:53.6% 第9号:40.6% 第10号:55.1% 第11号:59.3% 第12号:60.8% 第13号:35.0% 第14号:53.1% 第15号:44.9%
2	敷島団地～伊勢町～小瀬スポーツ公園						
3	敷島団地～昭和バイパス～山梨大学医学部附属病院						
4	敷島営業所～グリーンライン～昇仙峡滝上		共通ICカード・金額定期券・ゴールド定期の周知活動	共通ICカード(パスモ)の普及促進を図り、県民・来県者への周知を図る		全国共通利用が可能である共通ICカードの利用促進を図ることで、県民の利用しやすい環境を整備するほか、観光等の来県者への周知により、バス利用の促進が図られ収入増加が見込まれる。また、ICカードによる金額定期・ゴールド定期(高齢者フリーパス)の周知により、バス利用の促進を図り収入増加が見込まれる。	
5	敷島営業所～竜王駅～昇仙峡口						
6	敷島営業所～御所循環～敷島営業所						
7	敷島営業所～山梨英和大学～石和温泉駅		バスの出前授業(のりかた教室)の開催	小学校等を中心に、各学校への訪問、営業所等への来所によるのりかた教室を実施		乗り方を知らない若年層等を中心に、路線バス乗車への不安を解消しバス利用促進が図られるとともに、路線バスへの興味を抱かせ、家族との利用を促す等のパブリシティ効果が期待され、収入増加が見込まれる。	
8	敷島営業所～後屋～山梨大学医学部附属病院						
9	甲府駅～十五所～諏沢営業所						
10	小笠原下仲町～西野～中央病院		学休期中の小児・学生運賃割引の実施	各学休期中において、一乗車小児50円、学生100円となる運賃割引を実施		普段路線バスを利用しない児童・学生にとっては、学休期中において路線バスを体験できる機会を設定する。また通学手段として普段は定期券所持による児童・学生にとっても、学休期中においても、移動手段としての路線バス認知を広め、将来的・恒常的な移動手段となるよう動機づけを行う。	
11	小笠原車庫～十五所～甲府駅						
12	甲府駅～十五所～フォレストモール富士川						
13	韭崎～増富温泉郷		やまなし公共交通フェスティバル等の開催	県・事業者等と連携したフェスティバルやパネル展示展を開催する。		公共交通全体とした取組みとする事で、過度なマイカー依存からの脱却による公共交通利用促進を目的としたイベントを開催する事で、路線バスの利用促進が見込まれる。	
14	韭崎駅～大草～甲府駅						
15	韭崎駅～敷島～甲府駅						

(備考)

- ・内容については、バス事業者・関係市町村等とも連携して取り組む。
- ・関係市町村は、甲府市・韭崎市・南アルプス市・北杜市・甲斐市・笛吹市・中央市・富士川町・昭和町
- ・数値目標はR5年度の実績値と比較(実績経常収支率は事業者単価を採用)

生産性向上への取り組み（西東京バス(株)）

申請番号	系統名等	実施主体	取組内容	取組目標	取組期間	期待される取組の効果	数値目標(目標期限、目標値)
第1号	丹波山村役場線 (奥多摩駅～奥多摩湖～ 丹波山村役場)	・西東京バス(株) ・県 ・関係市町村	◇全系統共通 ①沿線PR事業 令和4年11月から丹波山村と連携し、「狼伝承」にちなんだ特別な停留所名案内、車内BGM等の企画を実施している。路線活性化策として引き続き今後も検討・実施していく。 加えて令和元年以来となる沿線PR広告を作成し、沿線店舗・施設等の認知度向上による沿線への訪問者増を図る。上記をホームページなどで広くPRすることで、これまでメインだった登山客以外の新たな観光客の利用を目指す。	①沿線の魅力を発信することで新たな観光客層の取り込みを図り、対前年で収益を増加させる。	令和6年 10月～(随時)	①住民や観光客の一層の取り込みにより、バス利用者の増加が図られ、収益の増加が見込まれる。 ②利用者1人当たりの運賃支払単価を増加させることで、収益の増加が見込まれる。 ③収支実績に即した運行便数の設定により、収益の増加、経費の削減が見込まれる。	令和5年度実績(基準年度)を基準とし、1%以上の改善を目標とする。 ※参考 R5年度実績経常収支率 第1号: 55.1% 第2号: 58.7%
			◇全系統共通 ②適正運賃の検討 令和5年3月に基準賃率改定に伴う全路線での上限運賃改定を実施し、令和6年4月にも実施運賃の改定を実施した。しかしながら現在も認可上の上限運賃から引き下げた実施運賃にて運行している区間がまだ残存している。引き続き適正な運賃を研究し、利用者に許容頂ける範囲内で運賃の改定を検討する。	②一人当たり支払い単価の増により対前年で収益を増加させる。	令和6年 10月～(随時)		
第2号	鴨沢西線 (奥多摩駅～奥多摩湖～鴨沢西)		◇全系統共通 ③利用実態に即した適正な運行便数の設定 令和6年10月に、利用実態に即した運行便数への変更を行う。利用の多い系統や時間帯では増回を行い更なる利用増を、利用の少ない系統や時間帯では減回を行い経費の削減を行うことで、収入・支出の両側面から生産性の向上を図る。	③利用実態に即した便数設定により、利用増による収益を増加させ、減便により経費を削減させることで、収支両側面で効率化する。	令和6年 10月		

(備考)

- ・内容については、バス事業者・関係市町村等とも連携して取り組む
- ・関係市町村は丹波山村
- ・数値目標はR5年度の実績値と比較(実績経常収支率は事業者単価を採用)

生産性向上への取り組み（富士急バス(株)）

申請番号	系統名等	実施主体	取組内容	取組目標	取組期間	期待される取組の効果	数値目標（目標期間、目標値）
第6号	河口湖線 (河口湖駅～膳棚・旭日丘～御殿場駅)		児童・生徒向けバスの乗り方教室、SDGs教育ツアーの実施	小学校、中学校を中心に、各校を訪問や、市町村のイベントへ出展時に乗り方教室、営業所へ来所された場合はSDGsツアーの実施を行う。		乗り方がわからない世代に向けて、路線バスの乗り方（予約の必要有無、運賃の支払方）を案内することで、バス利用への不安を解消し、利用促進が期待できる。また、参加いただいた児童や生徒が家族を連れて乗車するなど、利用者拡大の効果が見込まれる。併せて「SDGsツアー」内で教材として電気バスを使用し車両の構造、環境負荷削減、実際に動く車両に乗車し快適性等を通じクリーンなエネルギーの車両としての魅力を広くPRし、環境意識の高い利用者の獲得を目指す。	
			高齢者向けバスの乗り方教室の実施	市町村のイベント時などに乗り方教室の実施を実施する。		免許返納や車の運転に不安を抱える世代に向けて、路線バスの乗り方（予約の必要有無、運賃の支払方）を案内することで、バス利用への不安を解消し、利用促進が期待できる。また、お客様同士のつながりでの利用者拡大や、ご家族連れでの利用による利用者拡大が期待できる。	
第8号	忍野・山中湖循環線	・富士急バス ・県 ・関係市町村	シルバー定期の周知	乗り方教室と合わせて、シルバー定期の存在や利用条件の周知を行う。市町村と協力し、広報などの掲載で周知を図る。	令和6年10月 ～令和7年9月		令和5年度（基準年度）を基準とし、1%以上の改善を目標とする。 ※参考 R5年度実績経常収支率 6号：74.9% 8号：59.5% 9号：51.2% 10号：62.8%
第9号	新富士線 (富士山駅～本橋湖～富士宮駅～新富士駅)		ホームページでの情報発信	ホームページややまなしバスコンシェルジュを通じ、時刻表や運行状況など、お客様向け情報を随時更新、発信することで利便性向上を図る。また、情報発信を多言語で行うことで、訪日観光客向けの利便性向上を図る。		インターネット上の情報を拡充することで、お客様の情報収集の利便性を向上させる。これにより、地域での利用者及び、観光やビジネスで一見客の利用の増加が見込まれる。	
第10号	甲府線 (甲府駅～石和温泉駅～御坂トンネル～富士山駅)		デジタルチケットの導入	デジタルチケットシステムを導入することで、定期券および一部の企画乗車券の窓口での購入が不要となり、旅客の利便性向上に加え、窓口人件費、消耗品費等の削減を図る。		定期券、企画乗車券の発売販路を広げることで、利用の増加を見込むほか、窓口人件費、消耗品費の削減を見込む。	
			やまなし公共交通フェスティバルへの参加	フェスティバルへ参加し、公共交通の利便性を広域的に発信することで、利用促進を図る。		フェスティバル開催時	

(備考)
 ・内容については事業者・関連市町村と連携して取り組む。
 ・関係市町村は富士吉田市、富士河口湖町、山中湖村、忍野村、鳴沢村、甲府市、笛吹市
 ・数値目標はR5年度の実績値と比較（実績経常収支率は事業者単価を採用）

生産性向上への取り組み（富士急モビリティ(株)）

申請番号	系統名	起点	経由地	終点	実施主体	実施時期	取組内容	取組目標	取組の効果	数値目標
第4号	河口湖線 ・河口湖駅～旭日丘～御殿場駅 ・河口湖～膳棚・旭日丘～御殿場駅	河口湖駅 河口湖駅	旭日丘 膳棚・旭日丘	御殿場駅	・富士急モビリティ ・山梨県 ・関係市町村	令和6年10月1日 ～令和7年9月30日	<p>●事業者</p> <p>①コンテンツプロバイダへの情報提供を拡大することで、ICTを活用した利用促進を行う</p> <p>②宣伝を強化し利用促進の実施</p> <p>③地域に根差した公共交通サービスの提供</p>	<p>①国内外で利用されている主要乗換検索サイトに、情報提供を行い複数媒体で乗換検索を確認できるようにする。</p> <p>②生活観光混乗路線を目指し、見やすい時刻表の配布や、クレジット決済・バスロケーションシステムの存在をPRし、使いやすい公共交通をアピールする。</p> <p>③地域で開催されるイベントへの出展や近隣小学校での乗り方教室の実施などを通じてコミュニケーションを図る。</p>	<p>①旅行者の多くは自社HPよりも乗換検索サイトでバスの時刻検索をすることが多いた為、情報の拡充を行うことで、利用促進に繋げる。</p> <p>②沿線住民・旅行者ともに使いやすい路線を目指し、多言語で時刻表や乗車方法等の案内を提供することで、バス利用に対する不安を払拭することで利用に繋げる。</p> <p>③沿線地域とのコミュニケーションを密にとり、路線バスに親しみを持ってもらうことで利用に繋げる。</p>	令和5年度収支率から1%以上の改善を目標にする。 (令和5年度80.49%)
(備考)										